

事務事業名	地域子育て支援センター事業(委託)	所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課				
総合計画体系	政策名	(Ⅲ) 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	所属G	教育・保育グループ	課長名	渡部泰昌			
	施策名	(26) 子育て支援の充実	担当者名	郷原綱代	電話番号	0854-40-1044 (内線) 2252			
	目的	対 子どもの保護者と産み育てたい 象 夫婦	予算科目	会計	款	大事業	大事業	児童福祉事業	
	基本事業名	(079) 子育て相談の充実		0	1	1	5	0	3
目的	対 保護者	意図	安心して子育てができる。	項目	中事業	中事業	地域子育て支援センター事業 (委託)		
			子育ての悩みが相談できる。	1	0	0	5	0	6

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16 年度 ~)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	地域や家庭におけるより良い子育て環境をつくるために、子育てに関する相談と同世代の親子の仲間づくりを支援する場として、また子育て情報提供の拠点施設として子育て支援センターを設置している。子育て家庭の親とその子ども(主として概ね3歳未満の児童及び保護者)を対象としている。大東、加茂、掛合子育て支援センターの3施設について事業委託している。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	30年度実績(30年度に行った主な活動) ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 ・子育て等に関する相談、援助の実施 ・地域の子育て関連情報の提供 ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施	元年度計画(元年度に計画する主な活動) 前年度と同様			
	② 活動指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
ア	地域子育て支援センター設置数(委託)	箇所	3	3	3	3
イ						
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)	
	主として在宅で保育されている就学前児童及びその保護者	ア	未就園児童数(大東、加茂、掛合、吉田地域)	人	160	121	86	77
		イ						
		ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)		
子育て中の親子同士が交流を深めたり、スタッフ(子育ての知識と経験を有する者)に相談することにより、子育ての負担や悩みを解消し、ゆとりを持って子どもに対応することができるよう育児力を向上させる。	ア	サークル等参加人数(支援センター直営委託合計・延人数・保護者含む)	人	21,864	19,845	20,404	20,500	
	イ	年間延利用者数(委託)	人	7,224	6,556	6,231	6,500	
	ウ							

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (30年度決算)	② コストの推移	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(計画)	
<主な支出> ・委託料 21,162千円	財源内訳	国庫支出金	千円	6,681	6,681	7,043	6,804
		県支出金	千円	6,681	6,681	7,043	6,804
		地方債	千円				
		その他	千円				
		一般財源	千円	6,321	6,933	7,076	7,056
	事業費計(A)		千円	19,683	20,295	21,162	20,664
	人件費	正規職員従事人数	人	2	1	1	
		延べ業務時間	時間	204	107	120	
		人件費計(B)	千円	809	436	520	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	20,492	20,731	21,682	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
子育て世代の意見交換、交流の場として機能している。講習、イベント等も定着してきている。利用者はやや減少傾向にある。育児不安等は保護者から積極的に相談されるようになった。また、合併後、居住する町を越えた利用が可能となり、そのような利用者もある。(H30年度については、大東のサロンの会場が建物の改修のため2か月使用できず、利用者数が減少した。)	育児相談事業との連携により、より育児家庭支援の充実につながった。支援センターで顔を合わせるうちに子育てサークルが発足するなどし、子育てサークルの育成にもつながっている。	子育て家庭の居場所(相談、交流、情報交換)として活用の場所があり安心して利用でき、支援の輪が広がることが更なる子育て全般の意識向上につながるかと期待されている。

事務事業名	地域子育て支援センター事業(委託)	所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課
-------	-------------------	-----	--------	-----	--------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由 子育て家庭の状況やニーズを踏まえた上で、対象者が利用しやすい環境をつくる必要がある。(例えば利用しやすい場所に移転する、土日にも開所するなど。)利用者ニーズに応え、利用者数を増加させる事業内容(利用しやすい場所への出張広場の回数増など)を工夫する必要がある。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
D 公平性	<input type="checkbox"/> 影響無	理由 市が実施する子育ての悩みや不安を持つ保護者へ対応する主要な事業がなくなり、安心して子育てしやすい環境とは言えなくなる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	理由 合併後、居住する町を越えた利用もあるが、利用者のニーズ等踏まえ、各地域に子育て支援の拠点となる施設は必要である。また、市の事業として保健師が実施している育児相談とも連携している。	
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 事業の成果水準を保ちながら、事業費の削減は困難。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
C 効率性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 すでに外部委託により事業実施している。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由 子育て家庭の保護者と子ども(主として概ね3歳未満の児童とその保護者)と一緒に利用することができ、市全体で5箇所ある子育て支援センターのどこでも利用ができる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 子育て中の悩みをもつ保護者の負担を軽減するための事業として定着している。利用者数を増加させるため事業内容を幅広く周知する、保護者が利用しやすい場所への出張サロンの増加など工夫が必要である。
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上	●																	
	維持		×																
	低下	×	×																
<p>社会環境、就業形態の変化に伴う保護者の育児負担を軽減する取り組みの一環として、子育て親子の交流の場の提供、育児相談など引き続き実施するが、子育て家庭のニーズに沿うものとなるよう改善していく。</p> <p>他事業との連携により、児童虐待防止や育児不安の解消などに繋げる。</p>	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		